

令和4年度第11回 感染症発生動向調査部会
議事要旨

1 日 時 令和5年2月15日(水) 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 応接室(岐阜市柳戸1-1)

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志(岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長)
大西 秀典(岐阜大学大学院医学系研究科 小児科学 教授)
澤田 明(岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授)
加藤 達雄(国立病院機構長良医療センター 呼吸器内科統括診療部長)
大野 元(岐阜県産婦人科医会 理事)
石山 俊次(石山泌尿器科皮膚科)
オブザーバー: 市原 拓(岐阜市保健所 感染症対策課 感染症対策係長)
事務局 : 石塚 敏幸(感染症対策推進課 感染症対策第二係長)
山田 涼子(感染症対策推進課 技師)
今尾 幸穂(保健環境研究所 疫学情報部長)

4 議 題 (進行: 澤田委員)

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題について
- (3) その他(感染症対策推進課から)

5 議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題について】

○今シーズンのインフルエンザの流行について(継続)

- ・岐阜県は2023年第1週から流行入りし、発生届出数は今週も上昇傾向がみられます。可茂保健所管内が突出して始まり、現状は全体的に増加傾向にあります(事務局から)。
- ・可茂保健所管内の患者は集団発生があったのか。その原因はなにか(委員から)。
- ・注意報を発表しておりますが、可茂保健所管内の外国人のコミュニティでの集団生活での発生があり、定点医療機関2点に集中したことを保健所が確認しています(感染症対策推進課から)。

【その他検討課題】

○感染性胃腸炎の増加傾向について

- ・小児科定点患者と食中毒患者の発生状況は平行した発生がみられるか(委員から)。食中毒のリアルタイム情報は見られるか。
- ・食中毒は事件となった患者のみが挙げられているので、全体の患者数は計上されていない。岐阜県の

リアルタイムの発生状況はホームページで公開されているが、食中毒患者のみの計上である（事務局から）。

- ・全国的な発生状況は、コロナ前と比べてどうか（委員より）。
- ・調べて次回に報告します（事務局より）。

○サル痘の国内発生状況について（感染症対策推進課から）

- ・世界的には終息傾向であるが、国内発生は1月からも多く発生が確認されている。
- ・現在は関東圏に偏っているが、今後の拡大の恐れがある。患者は同性間性的接触のある男性に多く発生しており、そういった対象者にはリスクが高まっている（委員から）。